

年年歳歳2006京都青年団体会議

『次元超越』 ～団体会議は新たなる Stage ～

2006年2月11日 於 ラウンドワン 河原町店、京都ロイヤルホテル&SPA

㈱高畑工作所 高畑 國正

第6回京都青年団体会議が行われました。今回はスポーツを通じて団体間の親睦をより深め、また、新たな参加者の呼びかけを図ることを目的に開催されました。

1月24日にイベントとして予定されていた第1競技ゴルフ大会は、残念ながら悪天候のため中止となりました。ただ平日開催ということもあり、機青連からの参加予定者はおられませんでした。2月11日、第2競技のボウリング大会には113名が参加、機青連からは11名の方に参加していただきました。各競技は個人戦のほか構成団体対抗戦も兼ねており、参加人数と個人の獲得順位に応じて点数がつけられました。結果、優勝は京都青年中央会、機青連は8位という成績でした。

また、当日には『志で繋ぐ！共同宣言”聖文“リレー』が行われました。各団体代表者が全構成団体本部を歩いて回り、それぞれで共同宣言に署名してもらい完成させていくという、団体間の連携の証を体現しようという企画でした。午前10時半、長岡京市立産業文化会館を出発し、途中梅小路公園を経由して京都市役所を目指します。飛永代表幹事をはじめ、ほとんどの団体代表者様方にご参加いただくことができました。

そうして完成された共同宣言は懇親会の冒頭で発表していただき、京都青年団体会議の象徴としてアピールしていただきました。また懇親会では表彰式やスポーツアトラクションなども行われ、盛況のうちに幕を閉じました。登録者数は207名、機青連からは15名の方に参加していただきました。

以下に団体会議を終えて感動覚めやらぬうちに書き綴ったメールを紹介します。

【団体会議を終えて・・・『環境』】

年年歳歳2006京都青年団体会議、無事に終えることができました。とにかく無事で終わり、今はほっとしております。

実行委員会には2年連続で出向させていただきました。昨年同様、本年度も機青連内の他の役割から外れ、団体会議に集中できる環境を作っていただきました。誰もが仕事や家庭事情に加え、それぞれの会での役割もあり、なかなか団体会議の都合に合わせられない環境にあります。そんな中、私は少なくとも機青連に対しては遠慮することもなく団体会議に集中することができました。実行委員会で重責を負い、責務を全うすることができたのも機青連の団体会議に対する理解・熱意があつてこそと思います。

今回の団体会議では『高畑企画』、『暴走機関車』、『あいつが代表者会を動かした』など、震えがくるほどのお褒め(?)の言葉をいただいております。無論、実行委員会が一丸となって作り上げた団体会議であつて、私ひとりが企画したものではございません。ただこれまでの私の言動がそういう印象を与えてきた結果だと思いますが、それこそが機青連の力であつたと確信しています。機青連からは団体会議に集中して好きに暴れてこいと言われていました。(たしかそうでしたよね？飛永代表)実行委員の中ではそういう立場でいることができたのは私だけでした。縦横無

尽に活動する機会を与え、個人の力を実力以上に発揮する環境を作ることができるのが飛永代表率いる機青連だったと思います。結果として実行委員会全体を引っ張っていくことができるほど精一杯できたと実感しています。反省すべき点、不足したことなど多々ありますが、できるだけのはできました。少なくとも実行委員会では『これが機青連だ』というところを十分アピールできたのではないかと考えています。

【団体会議を終えて・・・『聖文リレー』】

《志で繋ぐ！共同宣言”聖文”リレー》

団体会議の代表者会議では共同宣言を作成しています。全構成団体の代表者がそれに署名し、各団体に持ち帰っています。つまり構成団体数が14なら、14人が署名したものが14枚あるということ。聖文リレーは、各団体本部を歩いて回りそれぞれで共同宣言に署名してもらおうというもの。団体間の連携の証を体現しようという企画でした。

主幹団体の京青研山口会長には全部を歩いていただき、他の代表者にはその本部から次の団体本部まで同行していただく。このような内容で代表者会に提案しました。

私たちがこだわったのは、代表者が歩くこと、全員が最初から歩くこと、この2点でした。代表者が自ら行動することで、それぞれの会全体が聖文リレーに目を向けてもらえるようになるのではと考えました。

また全員が最初から歩くとは提案書にはないことですが、そうすることで会議室などではできない会話もしやすくなり、より代表者間の親睦を深め、そこから団体間の親睦に発展することができればと願いました。

私もさしでがましく代表者会議に出向き、そのことを訴えてきました。やはり安全の問題と、参加しないことで逆に信頼関係を損なうことにもなるなどのご指摘を受けました。一方ですぐに賛同して下さった方もいらっしゃいました。そんな方たちの多大なご協力を受け、代理人や途中参加者を含めますがなんとか全構成団体代表者に聖文リレーに参加していただくことができました。

聖文リレーに参加した結果どうであったのか、実際のところは私には分かりません。体力面で無理をさせてしまったのは確かでしょうが、それでも滅多にない貴重な時間であったと確信しています。

参加していただいた方を通じて、各団体でより一層京都青年団体会議に対する理解を深め、いずれは京都全体で盛り上げていく会議に発展できればと願っています。

【団体会議を終えて・・・『次元超越』】

今回の団体会議はスポーツイベント。それが京青研が引き受ける条件でした。団体会議でスポーツイベントをして一体何になるんだろう？当初はそういう疑問を抱きながら実行委員会に臨んでいました。だったら親睦を深めることに主眼を置き、徹底的に皆が楽しめる企画にしよう。一部の者で話し合い、単なる運動会に終わらせないために議論を交わしました。

たとえば2年前の機青連の時にしたような鍋を囲んでの懇親会。あれは本当に同席した人たちと楽しく話ができ、お互いを知ることができた企画だったと思います。今回もそのような懇親会を目指しました。

結果としては、直接参加者どうしが交流を持てるような仕掛けまで用意することはできませんでした。懇親会はとても盛り上がったと思いますが、本来考えていた目的とはやや外れたものになったように感じています。懇親会であれだけ盛り上げることができたのは、それだけの設えができた

というよりは、むしろ私のことを応援していただいた機青連の方々や、昨年までの実行委員が熱い声援を送って下さった結果だと思えます。それは見方を変えればそれだけ団体会議を理解・応援していただいている方が増えたということ。また少なくとも今の代表者会においては相互理解を深めることができたと思っています。

今の代表者会の多くの方はこの4月で変わってしまいますが、今後きっとそれぞれの団体の中で団体会議を応援し、周りに広げていっていただけるものと思えます。

今後、もっともっと団体会議を盛り上げていくための種を撒くことはできました。より多くの方に参加いただき、京都全体を巻き込んで活性化させるものに進化すればいいなと切に願っています。

団体間の垣根を超え、時間を越えて繋がっていく団体会議。こんな願いを込めた年年歳歳2006 京都青年団体会議『次元超越 ～団体会議は新たなる Stage へ～』でした。多数の方にご参加いただき、ありがとうございました。

